

3年 総合的な学習の時間学習指導案

おいしいまち会見 ～広めよう会見の柿～

日時 平成29年11月13日(月) 5校時
場所 3年1組教室

1. 単元について

(1) 単元の価値

本校周辺は、田園と果樹園が広がり、特に、校区の南西側の丘陵地は、県内でも有数の柿や梨の産地である。本校は、南部の賀野地区と北部の手間地区の中間点にあるのだが、特に賀野地区は、「富有の里」として、富有柿の柿畑が山合いに連なり、生産・出荷に力を入れている。会見では、地元の特産として柿をPRしているほか、街灯のデザインを柿にしたり柿のキャラクターが作られていたり、生活に身近なものになっている。また、毎年11月には、「全国柿の種吹きとばし大会」も大々的に行われ、観光資源としても期待がかかる。その一方で、近年、会見選果場では、選果される果物の種類が、10月の輝太郎柿と11月の富有柿のみに特化され、もともと多く作られていた西条柿や梨などは、西部地区の他の選果場に出されたり、自家用として消費されたりしている。実際に、柿畑を管理しておられる農家の方々の高齢化もあり、家族経営での生産・管理の大変さがあるという。子ども達は昨年度3月に行った現4年生との引継会、4月の特産物調べから会見が県内でも有数の柿の名産地であることを知り、関心・意欲をもって取り組んでいる。これまでの学習で、学校の外に出かけ、柿農家や選果場、JAの方と関わり合いながら、柿について学んだり、柿に対する地域の方の思いを知ったりする活動を重ねることで、柿に対して愛着や誇りを感じている。今まで当たり前に見ていた会見の柿のことを知ることで、会見の宝として実感することができると考える。また、PR隊として自分たちの活動から、会見の柿のすばらしさ、柿で会見を元気にする方法を考えている。これからは、学習の中にかかわっていただいている大人に自分たちがしてきたことを提案する場面も設定していく。大人と子どもの考えのずれに気付く場を設定しながら学級全体で本当に相手の立場も考えた値打ちのある活動を考え実践し、評価を受けたり振り返ったりすることで、子どもであっても地域の役に立つという充実感を味わい、進んで地域にかかわっていく態度を育てたいと願い、この単元を設定した。上記のように会見の柿を素材に地域の方と関わりながら地域のことを考え、考えを行動に移す達成感を味わったり、自分達の成長に気付くことができたりするのは、この単元の価値である。

(2) 子どもの実態

今年度7月に行った「総合的な学習の時間」についてのアンケートでは、下記の通りである。

24人中	そう思う(人)	どちらかといえばそう思う(人)	どちらかといえばそう思わない(人)	そう思わない(人)
みのりの時間の勉強は好きだ	16	6	2	0
体験したことや集めた情報を整理したり、課題を解決するためにどの情報を使ったらよいか考えたりしている。	13	11	0	0
みのりの時間で、学級の友だちや地域の方と話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えている。	16	5	2	1
みのりの時間で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	7	13	3	1
地域をよりよくしようと思い、友だちや地域の方と協力して学習を行っている。	18	5	1	0
みのりの時間で学習したことは普段の生活や社会に出たときに役立つと思う。	17	6	1	0
地域や社会をよくするために何をすべきか考えている。	10	8	4	2

子ども達は3月に引継会で現4年生の取組を知り、本単元の学習に興味をもつと共に、新しい学習である総合的な学習の時間(みのりの学習)をがんばろうという意識をもって生活している。1学期末のアンケート結果でも22名がみのりの時間を好きであると回答している。本校は、全校が徒歩通学であるものの、日々身近に柿を見ている子どももいれば、新興住宅地であり柿との接点がない子どもも多い。さらに自分の家で柿を栽培している子どもは学級で数名いるが、あまり農作業を手伝った経験がない。昨年度の3月に現4年生から1年間の取組を聞き、4月には会見の特産物を調べ、柿について学習していくことになった。しかし、昨年度の3年生が学習に使わせてもらっていた柿畑が事情により使えなくなり、CSの方に今年も学習ができるようお願いをするところから学習が始まった。その結果、2つの柿畑を学習の場としてお借りすることができた。そのうちの一つが専業農家の方の畑

で、もう一つが兼業農家の方の畑となった。子どもたちはその2つの柿畑を比較しながら学習をすることとなった。5月には、実際に柿畑に出かけた。2つの柿畑の立地の違いや、農家の方が柿の栽培に一生懸命に向き合っておられることを肌で感じる事ができた。また、疑問に思ったことなどをインタビューする活動も行った。その後、約1ヶ月おきに見学を続けながら、作業の様子や実の成長をつかむことができた。また、自分たちの木や枝を決めさせていただいて、成長をより楽しみにすることができた。2学期には、2つの柿畑へそれぞれ出かけて行って柿の実が大きく育ってきたことを観察した上で、どのようにPRができるか具体的に考えていった。9月下旬に計画していたスーパーマーケットへの社会科見学に合わせて、店にポスターやチラシなど、PRできる材料を置かせてもらうをお願いすることにした。結果として、「会見の柿のよさや思いが具体的に伝わる物を作ってほしい。」という店長さんの話を聞き、その後の1ヶ月間、再び調べ学習の必要を感じながら取り組んだ。PR作戦として、まず学習発表会での発表を通して柿の素晴らしさを地域や保護者の方に広め、自分たちの活動に手応えを感じ始めている。また、会見の柿づくりの現状を知ったり兼業農家で柿作りをされている方にビデオレターで質問を送り、その返事から会見の方の柿に対する思いを感じとったりして、「会見を元気にしよう。」という意欲も高まっている。現在は様々な場所でのPR方法やスーパーマーケットでの会見の柿販売活動に向けて取り組んでいる。2学期の活動を通して、課題である「地域や社会をよくするために何をすべきか考えている」項目が成果に変わりつつあると感じている。また、アンケート結果から「自分の考えがうまく伝わる資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表すること」にも課題が見られる。自分が調べたり、考えたりしていることを整理して見える化したり、それらをもとに話し合ったりさせる学習も積み重ねていきたい。

(3) 指導にあたって

①自分達が体験したことやインタビューしたこと、調べたことをまとめ、発表する場の設定

子ども達はこれまでに体験活動を積み重ねたり、柿農家の方や選果場、JAの方にインタビューしたりしている。また、疑問に思ったことを本やインターネットで調べたり、体験的に調べたりしている。PRに向けてグループや全体で話し合うことで、「柿農家さんを元気にしたい。」「柿で会見を元気にしたい。」というアイデアが出てくると考える。子ども達でできることもあれば、地域の方やJA等と協力しなければできない提案も考えられる。説得力のある発表(提案)をするには、今までの体験や調べ学習から得た情報をいかに整理・分析することが大切になってくる。これまで調べたりインタビュー等で分かったことの情報や視覚的に整理したり、学習内容を構造的板書を工夫し、整理・分析をすることで子ども達の思考が明確になり、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表することができるであろう。

②自分達の考えや思いが実践される場の設定

子ども達は、地域の方や町外の方に「柿のデザートを味わってほしい。」「柿農家の方を元気にするために「柿の販売を手伝いたい。」「お礼の気持ちを伝える。」「自分たちにできることをしたい。」などのアイデアを思いつくことが予想されるが、その活動が本当に「うれしい」「役に立つ」「必要とされる」ものなのかを考えさせ、本当に相手の立場も考えた値うちのある活動と思えるようにしたい。そうすることで自分たちの力で地域を盛り上げていくことができるという自信や今後の活動への意欲付けをしたい。また、これまで外部の方(店長・選果場長など)に新しいアイデアや反対意見を受けたときにこそ、子ども達が本気で考え、活動を前進させることができている。子ども達を本気にさせるよう外部の声を提示し、大人と子どもの考えのずれに気付かせ価値ある実践の場へとつなげていきたい。

2. 単元目標

- ・地域のすばらしさや地域の方の思いを感じながら、自分たちの「会見の柿」に対する思いを高め、PRのアイデアを考えることができる。
- ・「会見の柿」にこめる思いや願いが伝わるように工夫し、地域や地域外の人に広めることができる。

3. 単元の評価規準(収穫し 発信しよう)

①知識や技能	②思考力・判断力・表現力等	③学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの
ア選果場の見学や柿の販売体験を通して柿や梨などの特産物は、生産者と消費者の関係と深く関わっていること(相互性)イ調べたことを表にしたり、ポスターにしたりするなど相手に分かりやすくまとめる技能ウ相手を意識しながら大事なことをまとめ、説明する技能	ア「会見の柿」にこめる思いや願いが伝わるようにPRの方法を話し合い、発信の準備をしている。イ柿のPR活動の計画に取り組み、いろいろな形で販売に協力し、柿のねうちを伝えている。【社会参画力】ウ地域のすばらしさや地域の方の思いを感じながら、自分たちの「会見の柿」に対する思いを高め、PRのアイデアを考えている。【ふるさと愛着力】	ア「会見の柿」にこめる思いや願いが伝わるように地域の方にPRしようとしている。イ「会見の柿」のおいしさや素晴らしさを感じ、地域や地域外の人に広めようとしている。

4. 単元構成（全82時間…まち未来科12時間を含む）

○学習活動	子どもの問い・思考	評価規準
会見の特産物について調べよう（課題設定）14時間		
○特産物について調べる。 ○柿畑を見学し、農家の方にインタビューをする。（柿を育てる思い、栽培の流れ、工夫や苦労など） ○「会見の柿」は有名なのかアンケートをとる。 ○これからの活動の見通しをもつ。（どんな風に育つか。おいしく育ててほしい。）	・会見のおいしい食べ物は、柿・梨かな。 ・柿畑はとてもきれいだな。一人でされるのは大変だ。 ・いろいろな人に柿を大切に感じてほしい。 ・本当に会見の柿は有名か聞いてみたいな。 ・柿を育てて、収穫したいな。	特産物調べ ①②③ア ②③イ ②ウ ①イ
自分たちで会見の柿を育てて、柿についてもっと知ろう（情報収集）22時間		
○お世話の方法を聞いて体験する。 ○JA女性部さんとの交流（名札プレート作成 自分の枝につるす。→観察） ○活動・季節の作業まとめ 振り返り ○農協の方から柿の栽培や出荷について知る。 ・会見の宝は柿と意識付ける。 ・出荷数、販売経路、加工品を調べる。 ○課題（働き手の不足）に対して、インタビューをし、自分達にできることを話し合う。	・前より大きくなってきたな。 ・枝に名前をつけるのが楽しみだな。 ・柿農家の方と協力しておいしい柿を育てるぞ。 ・会見の柿はすごいなあ。 ・一生懸命育てられているんだな。 ・たくさん出荷されているな。 ・県外や海外にも出荷されているんだ。 ・高齢の方ががんばっておられるんだね。 ・自分たちにできることはないかな。	柿を知る ①ア ②ア ②イ ③ア ②ウ ③ウ ①イ ②エ
柿で会見を元気にしよう（整理・分析）10時間		
○会見の柿を使って地域を元気にするアイデアを考えよう！ ・ポスター、チラシ、パンフレット、旗 ・レシピ作り、デザート作り など	・どうしたら、PRができるだろう。 ・会見の柿のいいところが伝わるように考えよう。 ・たくさんの人に食べてほしい。 ・自分たちでやってみたい。 ・作った物を飾ってほしい。	収穫・発信 ①ア ②ア ③ア
収穫し 発信しよう（まとめ・表現）18時間		
○学習発表会で学んだことを発表したいな。（柿をPRする劇作り→発表→振り返り） ・地域の方へ伝えたい情報を整理しよう。 ・発表会が終わったら、他の学年の人や保護者・地域の方へアンケートをしてみよう。	・柿の育ちやおいしさ、素晴らしさ、柿農家の方の苦労を伝えたいな。 ・しっかり柿の良さが伝わるにはどうしたらいいだろう。 ・柿のおいしさや素晴らしさを季節ごとに表現したり、農家の方の苦労を伝えたりしたいな。 ・学習発表会でお家や地域の人に伝えるぞ。 ・地域の方だけでなく町外の方にも伝えたいな。 ・どんなアンケートが返ってくるかな。会見の柿のPRになったかな。	収穫・発信 ①ウ

○柿農家の方や会見を元気にする方法を考え、行動しよう。【本時】 ・柿の販売体験をする。 ・デザート等を地域や地域外の人に紹介する。 ・店にポスターやチラシを置かせていただく。 ・チラシ配りと試食コーナーを設置する。	・店頭での販売体験やチラシ配り、デザートの紹介などをしてほしいな。 ・店長さんや協力してくださる方にお願ひしよう。 ・笑顔で販売するって難しいな。でもやりがいがあるな。おいしい柿をしっかりとPRしよう。 ・柿が苦手な人も食べることができるレシピも紹介したいな。 ・いろいろな所でチラシ配りや試食コーナーをやってみてほしいな。 ・会見の柿がたくさん売れたよ。米子や県外の人にも会見の柿をおいしいと言ってくれたよ。 ・収穫って思ったより難しいな。 ・農家の方が傷つかないように収穫する姿から柿の大切さがよく伝わったよ。 ・収穫のお手伝いできてよかったよ。 ・地域の人や友達と協力するとすごいことができるね。	②イ ②ウ ③イ ①ア
○やり方を習いながら収穫する。		
○振り返り		
柿で会見を元気にしよう（まとめ・表現）18時間		
○活動の計画を立てる。 ○枝拾いの手伝いをする。 ○ポスト設置・メッセージ集め ○家の人への活動発表会の準備をする。 ○お世話になった方の思いを知り、どのように伝えるかを相談する。 ・修正した活動の発表準備→発表 ○がんばりを認め合い、2年生に伝える相談をする。 ・引継ぎ会 ○活動をふり返る。	・お世話になった方は何がうれしいのだろう。相手の立場になって考えよう。 ・柿農家の方のお手伝いがしたい。 ・柿農家やお世話になった方に感謝の気持ちを伝えたい。 ・元気づけるメッセージを集めよう。 ・がんばった。喜んでくださったかな。 ・2年生に活動したことを引き継ぎたいな。 ・2年生にも1年間の取組が伝わるように分かりやすく楽しく伝えよう。 ・会見の柿がさらに好きになったよ。 ・最初は恥ずかしかったけれどスーパーで販売できてうれしかったよ。 ・会見の柿や農家の方は宝物だね。	会見を元気に ②ア ②ウ ①イ ③イ ①ア ②イ ③ア ①ア

5. 本時の学習

（1）本時の目標

- ・会見の柿の良さを伝えられる売り子になる方法を話し合い、実際に役割を演じることでこれからの活動に見通しをもつことができる。

（2）準備物

- 振り返りシート、アンケート結果のグラフ、グループごとのメモ用紙、児童名の書いた札（板書用）、売り子用の机・柿

6. 本時について (55 / 82時間)

目指す姿

会見の柿の良さを伝えるための方法をしっかりと考え、売り子として自分たちにできることを相談しながら真剣に練習をしている。

・前時までのことを振り返る
・はじめのあいさつ

課題

会見の柿のよさをお客さんにつたえられる売り子になろう。

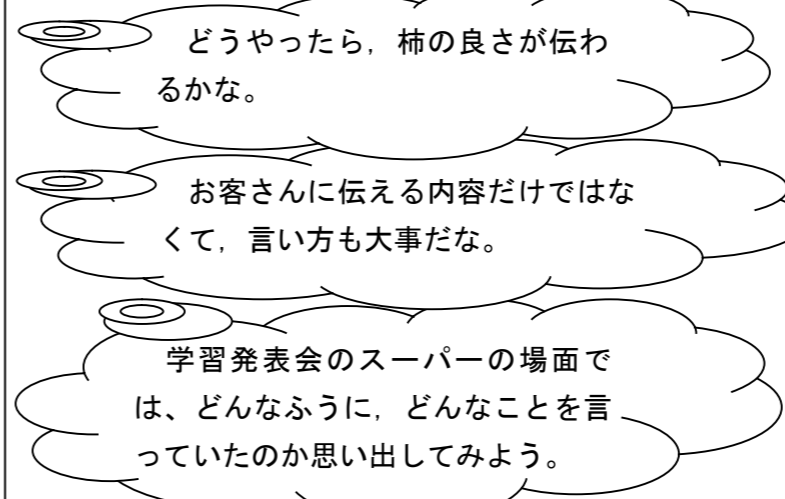
スーパーマーケットで、売り子としてどのようなことが自分達にできそうなのか、意見を出し合う。

前時に学習発表会後のアンケート結果を受けて、売り子として自分なりにPRに向けてできそうなことを書いたWSをもとに意見を出し合う。

観点	児童の予想される意見
栄養・いいところ	他の果物にくらべても、ビタミンCが多いよ。お医者さんが困るくらい、食べるといいことがたくさんあることを言ったらいいね。
おいしさ	おいしいし、甘いよ。甘柿の王様と言われているよ。渋抜きをする方法があるよ。
地域のよさ	一年中、頑張って作っておられる方がいるよ。働きながらも、会見のためにお世話をしておられる方がいるよ。
苦手な人に向けて	嫌いな人に向けて場所によって甘さが違うことを伝えたいな。おいしく食べられるレシピを教えてあげたいな。

自分たちで考えた柿のよさを、売り子になってお客さんに伝える練習をしよう。

グループごとに実際に活動しながら、よりよい方法を試行錯誤しながら考えて練習していく。最後には、いくつかのグループに、演じてもらって、それを見た感想や意見を出し合う。



ふり返しをする。

それぞれ、今日の学習で感じたことをWSに書く。時間があれば感想を伝え合う。

振り返り例：今日、売り子の練習をしてみて、柿のよさを伝えるのはむずかしいけど、これまで学習してきたことや今日練習したことをもとに、たくさんの人によさを知ってもらえるように頑張りたいです。

まとめの話：柿が売られているのは一年間のうちで今の時期だけなので、これまで学習したことをしっかりと伝えていきたい。子どもたちの活動によって、会見の良さや柿の良さをたくさんの人に知ってもらえることができる。みんなで頑張っていこう。

・あいさつ

留意点

支援

・前時までの学習や、前時のアンケート結果を簡単に振り返る。

児童からでてきた意見を、4つの観点別に分けて板書する。

事前にWSに書かせているので、意見をあらかじめ把握しておいて児童が意見を言うことにためらわないようにWSにコメントや線を引いたりして、自信をもって発表できるようにしておく。

保護者アンケートの結果も示して、消費者からの意見も取り入れて活動できるようにする。

自分がPRしたい観点は、自分で選ぶようにする。人数が多いところは、適切な人数に振り分ける。

グループごとに、メモができるようにWSをわたす。

売り子について、態度のことについて話がでてくる班は、それも認める。

売り子体験を通して、これからの活動に期待をもったり、自分たちに足りないところなどを自覚したりしながら更なるPRへの意欲を持たせるようにする。

【指導上の留意点・支援・評価】

学習発表会終了後に児童・保護者にアンケートを行っているので、その結果を活用する。

板書の工夫

(課) 会見の柿のよさをお客さんにつたえられる売り子になろう。

	会見の柿のよさを伝える方法	売り子の練習をしてみて気がついたこと
アンケート結果等、前時をふり返る資料	えいよう・いいところ	
	おいしさ	
	ちいきのよさ	
	苦手な人に向けて	

評価

柿のPRのために、柿の良さを伝える方法を話し合ったり、活動の練習に協力して取り組んだりして、柿の魅力を伝えようとしている。②イ

※評価方法…発言・行動観察・振り返りシート